

一宿為舍、再宿為信、過信為次」の一文が、『後漢書』「蔡邕傳」に「信宿三遷」の一文がみえる。
○羈泊…「羈泊」は旅の宿り。羈旅漂泊。旅泊。

慮思通の「為高僕射與司馬消難書」に「羈泊水鄉、無乃勤悴」の一文がみえる。

○低迷…ぼんやりとして明らかでないさま。また、頭をたれてさまようさま。雲などの低くさまようさま。

嵇康の『養生訓』に「低迷思寢」の一文が、李商隱の「七月二十八日夜與王鄭二秀才聽雨後夢作詩」に「恍惚無倪明又暗、低迷不已斷還連」の句が、朱彝尊の「喜雪詩」に「雲氣低迷海氣昏、窮陰連日暗孤村」の句がみえる。

『菅家文章』「226 思家竹」に「殊恨低迷摧宿雪、不期長養拂秋雲」の句が、同じく「449 九日後朝、侍宴朱雀院、同賦秋思入寒松、応太上皇製」に「秋思如絲亂不從、低迷暗入殿前松」が見える。ここでは「気分がすぐれず、呆然とした心境」を指す語と解したい。

○倒懸…逆さにかかる。縛って逆につるす。非常な苦しみをいう。

『漢語大詞典』は、①「指人頭脚倒置地、或物上下倒置地懸掛着」、②「亦、以人之倒掛、比喻處境極其困苦或危急、以家庭用具之倒掛、比喻極其貧困。」と説明する。(文中、「倒掛」は、逆さにして引掛けるの意)。

『孟子』「公孫丑上」に「當今之時、萬乘之國、行仁政、民之悅之、猶解倒懸也。」「集注」倒懸、喻困苦也。」の一文がある。

(須藤 修一)